

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4190700031
法人名	有限会社 さわやか門前
事業所名	グループホーム 浜
所在地	佐賀県鹿島市浜町乙2591番地1 (電話) 0954-62-6170

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成21年1月20日	評価確定日	平成21年3月23日

【情報提供票より】(平成21年1月8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 20 年 3 月 15 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	7人, 非常勤 3人, 常勤換算 8.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋建て
------	--------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,400 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(1月8日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.3 歳	最低	79 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	犬塚病院 ・ けんこう歯科
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

酒造通りなど歴史的な建造物が建つ町並みの中で、新築で落ち着いた雰囲気のある事業所である。開設一年目であり、まずはホームの充実を目標とし、「ゆっくり、楽しく、相手の気持ちをよく聴いて」の理念を、利用者本位の姿勢で実践されている。地域との交流等、ホームが地域で果たすべき役割も視点にいたした計画もあり、これからの活躍を期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初めてで、評価による取り組みや改善はない。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は代表者と管理者で記入し全職員に見てもらい、評価に対する理解をしてもらっている段階である。自己評価後の改善点として、玄関の鍵を廃止する取り組みをしている。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域より民生委員、区長、老人会、自治会班長、市の包括支援センター職員に出席してもらい、2ヶ月毎に運営推進会議を開催している。防災に関する意見により、ホームにサイレンやマイクの設置をするなど意見を活かした取り組みをしている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時や家族会の開催時に意見を聴いたり、個別の面談を行う取り組みもある。今後も家族は意見や不満、苦情を言い出しにくいことを理解し、意見箱の設置やアンケートなど、家族等からの意見をサービスの質の向上に反映させていく積極的な取り組みを期待したい。
重点項目 ⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	日ごろの近隣との付き合いや、買い物などで馴染みとなり、野菜や花を頂いたり気軽に挨拶を交わす関係が出来ている。地域住民の一員として溝掃除にも参加している。地域の住民を対象に「認知症を知る会」を発足し、運営推進会議等の協力を得て準備中である。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆっくり、楽しく、相手の気持ちをよく聴いて」というケアの充実を目的として、利用者本位の姿勢を全職員が意識を統一するためにつくりあげている。	○	現在の理念に加え地域密着型サービス事業所としての果たすべき役割を反映した理念づくりも期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングの最初に理念を唱和しケアのありようを見直している。また日ごろの関わりの中で、管理者は職員に対し理念に基づいた指導、育成を行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日ごろの食材の買い物や地域の一員として溝掃除等に参加し、地元の人々との交流に努めている。祭りでは地域の方にホームで獅子舞を披露してもらうなどしている。		
itiinn					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が初めての評価である。自己評価を全職員に見てもらい理解をしてもらっている段階である。改善点としては、玄関の鍵を廃止する為の検討をし、実行中である。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域からは民生委員、区長、老人会、自治会班長さんに出席してもらい、2ヶ月に一度運営推進会議を行っている。会議で防災に関する意見があり、マイクとサイレンの設備を取り付けるなどの取り組みにもつながられている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	介護相談員の受け入れや生活保護の入居者についての相談などの他、ホームが主催している、地域の住民を対象にした「認知症を知る会」の開催に向け、市の担当者と話し合いをしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	入居者の健康状態や近況報告など、面会時や家族会の開催時に報告している。月1回の利用料支払い時にも、定期的な報告を個別に行う機会を設けている。		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	個別に話し合う機会を設け意見を聞いたり、家族会を開催し希望等言ってもらえるよう努めている。	○	家族は、意見や不満、苦情を言い出しにくいということを理解し、事業所以外の外部の人に意見を表せる場があることを説明したり、アンケートで意見を聴くなど、個々の利用者の家族の立場に立った積極的な場面作りを期待したい。
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	事業所の都合で異動することはなく、離職があれば、利用者へのダメージを防ぐよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	職員の希望に応じ、研修を受講したり、資格取得の協力を努めている。県内の研修は参加費を事業所で負担し、参加後に報告会をするなどサービスの質を向上させるため事業所内での研修も行っている。		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	同法人内の事業所との交流は随時行っているが、他事業所との交流によりサービスの質を向上させていく取り組みまでには至っていない。	○	サービスの質を向上させるために、他法人との勉強会や相互評価、意見交換などの交流が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に職員が会いに行ったり、見学を受け入れるなど徐々に馴染みの関係が築かれるよう配慮している。入居間もない方には、言葉かけや見守りに努め、安心できる環境作りに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員も料理を一緒に作りながら、教えてもらったり、昔ながらのお菓子作りに挑戦するなど、入居者と共に楽しむ時間を大切にしている。他にも五目並べや音読など、入居者と楽しめる計画を立てている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろの会話の中から、本人の希望、意向を把握するよう努めている。身体状況に合わせ手すりを増やすなど、環境の改善をしたり、生活歴を職員が共有し、個別の楽しみを増やすなど入居者本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者、家族と個々に面談をし、ミーティング時には職員から関わり方についての意見を聞き、本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	半年ごとに、又状況の変化に応じて、介護計画の見直しをしている。実施記録も丁寧に記録されており、意向の確認、評価に繋がっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診や買い物などの外出支援、歯科などの通院支援が入居者や家族の要望に応じて行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や家族の希望により、長年看てもらっているかかりつけ医から適切な医療が受けられるよう支援をしている。また、情報の提供など良好な関係の構築に努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者の症状は、家族や主治医に相談・報告し、現状に即した対応を行っている。重度化した場合や終末期のあり方についての方針の統一までには至っていない。	○	重度化した場合のホームの対応について職員で方針を共有し、本人及び家族の考え方を早期より話し合い、意向がずれたまま、重度化の時期を迎えることがないように、方針の統一に向けた取り組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日ごろのケアの中で入居者の誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけがないように、職員教育に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の過ごし方を本人の希望に添って支援している。食事のメニュー、外出、買い物など入居者本人の希望やペースを大切にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望を取り入れたメニューを作成したり、一緒に準備をし、職員も同じ食事を、会話を楽しみながらゆっくりと食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の健康状態を確認しながら、希望に応じて、午後に入浴されている。	○	一人ひとりの習慣や好みに対応した入浴となるよう回数や時間帯を定期的に検討できる仕組みを作り、個別支援の更なる充実を期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	張り合いのある日々となるように、入居者の趣味や出来ることを把握し、楽しみながらできる役割を持ってもらっている。カラオケ、ゲーム、買い物、食材切りをしていたり、屋外でお茶を楽しんだりしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節や天候にあわせ、散歩に出かけたり、ピクニックや外食、買い物などの外出支援が行われており、入居者の楽しみ事の一つとなっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	自己評価により、鍵をかけないケアの大切さを、職員が意識している。一日の中でも、職員数、時間帯でやむなく鍵を使用する場合もあるが、玄関のチャイムをつけるなど、今後鍵をかけないケアを実践していく姿勢が窺える。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署との連携により、避難訓練を実施している。地域の住民への協力依頼を回覧板でお知らせし、協力を得ている。またAEDの設置により、地域の方と共に使用方法の研修会も行った。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量のチェックにより、栄養バランス等の把握ができています。水分の摂取についても、ペットボトルの利用で、夜間も摂取していただくよう支援をしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、絵画や花などで、家庭的な落ち着きが感じられる。畳を敷いて、のんびり出来る場所も確保し、居心地よく過ごせる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や、テレビ、生活用品等を持ってきていただくよう説明し、それぞれの居室に、写真や馴染みの物が飾られている。		